

1 Topics

ジェラート世界頂上決戦

～チームJAPAN、王者フランスに挑む～

放送予定:NHK-BS1/3月4日(日)午後10:00～10:50、11:00～11:50



世界11か国の凄腕たちが団体戦でジェラート界の頂点に挑む「第8回コッパ・デル・モンド・デラ・ジェラテリア」。4日間の戦いのすべてを実況中継風ドキュメント!昨年、世界ジェラートコンテストで、日本人初の世界一に輝いた柴野大造を擁する日本チームは果たして悲願の初優勝なるか!最高峰の職人がジェラートに込めた技、美しさ、プライドをひりつくような緊張感で描く。

ジェラート界の頂点に挑む

総勢11名。僕らとしては相当大所帯のロケでした。屋内での大会とはいえ、出場各チームの進捗はバラバラ。スタッフ間にLineが飛び交いました。少し前だったらトランシーバーしかなかった…隔世の感です。若手の出張Dは日本密着、彼女と同期の西口Dは様々な国を追う、僕は優勝候補フランスを見つづ全体を統括…と言うとカッコイイですが、実際は様々な情報に右往左往でしたね。「よし任せた!」とドシッと構えるくらいの巨匠感を醸し出したいものですなあ。

チーフ・ディレクター
木村 竜太

同期でロケに行くのは、AD時代含めても初めての経験。しかも多国籍チーム担当のカメラマンも同期という懐かしい面々でのロケ。しかし、大会中は和気あいあいとするわけにも行かず、調理が全チーム同時進行で動くため、自分でも小さなカメラで回す状態に。その業界のスペシャリスト達が一同に会するだけあり、どの国の技術も目を見張るものばかりで、どこが優勝するか常に緊張感がつきまとうロケでした。個人的には、初出場で気さくな女性パティシエ・オルガ選手率いるウクライナチームが大会中の癒しでした。果たして、ウクライナの結果やいかに…。

ディレクター 西口 友人

今回は製作スタッフのつゆやき特別編!!
三班集体でのイタリロケ。大所帯を仕切るチーフDのもと二人の同期Dが参戦。果たしてどんな現場だったのでしょうか?

なぜかメインどころの日本チームを担当。ジェラート&製菓の世界は奥深く個性際立つ魅力的なメンバーとも良い関係を築き、楽しく順調に取材が進んでいたと思っていたのが甘かった!あれだけ心を許してもらっていたはずなのに、大会中ハプニング発生後の密着は断固拒否!あれが撮れていれば番組の質が上がったかは分かりませんが、取材対象とただただ仲良くなれば良いわけではないと思い知らされました。今回三班集体でディレクター同士の連携は少なかつたものの同期の存在は精神安定剤でした!他にも心に残る出来事がたくさんありましたが200字では到底書ききれません!

ディレクター 出張 真理子



2 Topics

幕末の奇跡「民あっての国」～山田方谷 天空の城を死守せよ～(仮)

放送予定:NHK-BSプレミアム /3月15日(木)午後8:00～8:59

明治150年を迎え、西郷隆盛ら戊辰戦争勝ち組に脚光が当たりますが、今回取り上げるのは敗者、備中松山藩(現岡山県高梁市)の重臣・山田方谷。破綻寸前の藩財政を立て直し、軍備も近代化した奇跡の改革者の手腕と苦渋の選択に迫ります。為政者として、「民あっての国」の精神を実行した方谷は、今こそ注目に値するものです。天空の城も必見!



提供:高梁方谷会



(一社)高梁市観光協会

Special 「潜入！ 株式会社いちまるよん」

DJの関連会社であり、カメラマンをはじめとする技術スタッフ15名と機材、編集室も備える技術プロダクションが『いちまるよん』です。代表の山崎裕氏は、ドキュメンタリー番組だけでなく、是枝裕和監督や河瀬直美監督はじめ、多くの劇場用映画の撮影も担当するカメラマン。所属するスタッフも、DJだけでなく様々な制作者から指名を受け、テレビ、映画、広告と多岐にわたる映像制作に携わっています。DJスタッフにとっては、非常に身近な技術会社でありながら、未知なる現場にも身を置く、遠い存在でもあります。今回、深淵なる技術の世界を覗き見ようと、DJ地下階にあるオフィスに潜入、カメラマンの高野大樹さんに話をききました。



プロフィール

カメラマン 高野大樹

高野さんは入社22年目。中堅カメラマンとして、ベテランにも若手にも頼りにされ、現場から現場へ、国内外を飛び回っています。かつては個性あふれる先輩たちに鍛えられる立場でしたが、今では後輩たちの兄貴分として会社を支えています。

Q. 『いちまるよん』ってどんな会社？

自分にとっては『部室』のような会社です。ここから出発し、ここに戻ってくる。先輩、後輩、そして仲間がいる自分の居場所です。それぞれの現場で撮影した映像の良し悪しだけでなく、一スタッフとしてどんな関わり方をしたかを常に問われ、人間性を揺さぶられる。そうやって鍛えられた自分自身の技術やスタッフ関係からチャンスを掴まないと、順番や割り当てのように仕事は回してもらえない。…親切な会社じゃありませんね(笑)。

Q. 『DJ』との関係についてどう思う？

制作と技術との棲み分けを超えた、ものづくりを共有できるパートナーです。制作現場でカメラを持ち撮影することだけでなく、演出や製作スタッフと一緒に作りあげていく…そんなやり方で関わることが、自分にとっては非常に心地いいです。

Q. カメラマン、あるいは映像制作を志望する若い人へのメッセージをお願いします。

生き方が仕事にシンクロする仕事です。良くも悪くも関わった作品に自己が反映されることを、カタルシスとして味わえる人は、一緒にやってみませんか？



第19回

ディレクター 山本真裕

【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリージャパンのスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～



ドキュメンタリーは“耳を澄ますこと”である。

大きな声で主張すれば、フェイクですら真実になる世の中。社会で弱い立場にいる人たちは声をあげる事もできず、ただ耐え忍ぶケースがほとんど。ドキュメンタリーの大切な役割は、この誰にも聞いてもらえない小さな声を、広く届けることだと考えています。その声を聞き逃さないために、常に「耳を澄ます」ことを心がけています。

バトンを渡す相手

⇒ディレクター 日向史有さん

社内では数少ない、同い年のディレクターにバトンを渡します！

制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です！
詳細はドキュメンタリージャパンのHPまで。

編集後記

おかげさまでDJ Magazineは3年目に入ります。今後もドキュメンタリージャパンの事をもっと知っていただく為、魅力的な誌面作りにも励みます！DJのHPではバックナンバーもご覧いただけますので、ぜひ覗いてみてください。Specialで紹介した「いちまるよん」、DJのスタッフはいつもとてもお世話になっています。技術的なことで疑問が湧いたり相談したい時、DJのオフィスからふらっと地下へ階段を降りると、デスクの遠藤さんの笑顔に迎えられつつ、カメラマンや編集マンとすぐに話せる環境はととても有難く、DJにとって心強い味方です！ (S.N)

Design by HARIMA koutarou

株式会社ドキュメンタリージャパン

HP: <http://www.documentaryjapan.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目12番20号 和晃ビル1F TEL:03-5570-3551 FAX:03-5570-3550